

2021 年度（2021 年 5 月 1 日～2022 年 4 月 30 日）事業報告書

特定非営利活動法人 CFF ジャパン

1 概況

CFF ジャパンが設立 25 周年を迎えた 2021 年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が長引き、2 年連続して海外でのボランティアプログラムがまったく実施できない 1 年となった。そんな厳しい環境の中でも、国内で、世田谷・烏山の地域や教育関係者に向けて新たな取り組みを数多く立ち上げ、次年度につながる成果をあげることができた。

2 事業計画書に掲げた「主な取り組み」ごとの振り返り

| 対象 | | 定款上の分類 |
|---|----|--|
| 海外の子どもや児童養護施設へ | | 2 「子どもの家」支援等を通じた国際協力事業 |
| 取り組み内容 | 分類 | 結果 |
| フィリピン・マレーシア 「子どもの家」支援 | 継続 | 海外渡航ができない情勢であったが、引き続きサポーター寄付や指定寄付を財源として、コロナ禍で財政的に苦しい現地施設の支援を行い、入所児童の生活を守ることができた。 |
| マレーシアやミャンマー の地域の子どもの緊急 支援（無国籍児童等） | 拡充 | マレーシアでは CFF ジャパン独自に集めた寄付やサポーター寄付を財源として、困窮する無国籍児童の支援を行った。 ミャンマーでは情勢が大変厳しい中で、できる範囲で支援を模索した。 |
| マレーシア・サバ州の児童養護施設ネットワーク づくりと個別支援の普及 啓発 | 新規 | 昨年度に続き、当地の児童福祉に関する調査や関係機関との調整を行い、JICA 草の根技術協力事業として採択された。次年度以降本格的に取り組んでいく。 |

| 対象 | | 定款上の分類 |
|---|----|--|
| CFF に参加する青年へ | | 1 海外での開発教育等を活用した青年育成事業 |
| 取り組み内容 | 分類 | 結果 |
| 海外ボランティアプログラムの 2021 年春再開に向けた準備と（状況に応じて）限定的な実施 | 継続 | 新型コロナウイルス感染症の影響が長引き、今年度も実施できずに終わった。出入国制限が緩み、次年度は再開できそうな見込みがあるので、安全管理に留意しつつ慎重に準備を進める。 |
| オンラインスタディツアーの持続可能な形での実施 | 継続 | 他事業を優先し、大規模な一般向けオンラインスタディツアーの実施は見送ったが、昨年度に続き高校生向けプログラムを 1 回開催した。 |

| 対象 | | 定款上の分類 |
|----------------------------|----|---|
| 学校の学生・生徒へ | | 1 海外での開発教育等を活用した青年育成事業 |
| 取り組み内容 | 分類 | 結果 |
| オンラインを活用した大学や高校との協働事業、出張授業 | 拡充 | 大阪大学大学院との協働で修士課程におけるマレーシアオンライン研修を実施。院生3名に加え、現地からも参加者を募り、プログラムはすべて英語で実施した。また、新たに提携した角川ドワンゴ学園 N/S 高校では、SDGs ツアーを開催し、高校生42名が参加。同ツアーの参加者からグループリーダーを募り、リーダートレーニングの体制を新設することができた。従来からの提携校である順天高校においては、必修科目の海外研修をオンラインで開催し、32名の生徒が現地の社会課題を学んだ。 |

| 対象 | | 定款上の分類 |
|---|----|---|
| 学校の先生へ | | 1 海外での開発教育等を活用した青年育成事業 |
| 取り組み内容 | 分類 | 結果 |
| 研究会（エデュケーションラボ）の運営 教員向けオンラインプログラムの実施 | 新規 | 研究会では、学校の先生をはじめ、先生を目指す学生や教育関係者が「教育」について学びあえる場づくりを実践。教員向けの3ヶ国のオンラインスタディツアーでは、SDGs の諸課題に代表される国際的／地域的な社会課題を扱い、それらの社会課題を参加者が自身の学校の授業で取り扱うための契機となった。また、研究会がきっかけで茨城県教育研修センター主催の教員研修で登壇依頼があり、109名の教員向けにSDGsの現場での取り組みを紹介した。 |

| 対象 | | 定款上の分類 |
|----------------------------------|----|---|
| 地域の NPO や若者へ | | 3 国内での国際協力・青年育成等の啓発・推進事業 |
| 取り組み内容 | 分類 | 結果 |
| 世田谷での地域 NPO インターンシップづくりのためのトライアル | 新規 | 地域やテーマに関して専門性を持つ他団体や区内の若者有志とで実行委員会を結成し、オラクル有志の会ボランティア基金の助成を受けて実施。10名の学生を地域で活動する4団体にトライアルインターンとして派遣コーディネートをした。インターン期間にとどまらず団体にコアにかかわる学生が現れ、次年度以降に向けて協力者や担い手も増やすことができた。 |

| 対象 | | 定款上の分類 |
|--------------------------------|----|--|
| 地域の子ども・親子へ | | 5 その他法人の目的を達成するために必要な事業 |
| 取り組み内容 | 分類 | 結果 |
| 「そだちあいの子育てひろば」の定着 | 新規 | 子育てひろばのない給田地区にひろばの定着を図った結果、身近な地域における子育て仲間づくりや、“一人にしない子育て”の一助となった。さまざまな視点から育児を楽しみ学ぶ機会を地域に提供でき、お母さんがプログラム講師になるなど、地域住民の活躍の場としての価値も見出させた。ひろば利用者が少ないため周知・広報を強化し、地域親子の子育てニーズを探っていく。また、団体の特性を生かし多文化共生の要素をより取り入れ、子どもも成長できる場として、ひろばの環境整備も図っていく。 |
| 小学生向け学習支援の実施 ※年度途中で事業計画に追加) | 新規 | コミュニティカフェ「ななつのこ」にて小学生向けの学習支援を実施。当初は利用児童やボランティアの不足が課題であったが、少しずつ周知が進み、定例利用の児童や地域の学生ボランティアの担い手が増えてきた。4月現在は6名の児童が参加。利用料は無料で、世田谷区の補助金を資金源としているが、利用者やボランティアが増えたことで新たな資金調達が課題となっている。 |
| 学童期児童向け講座の試行 | 新規 | 2ヶ月に1回、烏山地域にて国際理解や多文化共生のための講座を対面で開催。地域の未就学児や児童が参加し、マレーシアとのオンライン中継では現地の子どもたちとの交流も実現することができた。また、せたがや国際交流センターにおいて、世田谷区民向けの多文化共生講座を実施。50名の区民の方にミャンマーの現状について講演をした。 |

| 対象 | | 定款上の分類 |
|--------------------------|----|---|
| CFF 自体へ | | 3 国内での国際協力・青年育成等の啓発・推進事業（25周年プロジェクト） |
| 取り組み内容 | 分類 | 結果 |
| 25周年プロジェクト（チャリティイベント）の実施 | 特別 | 団体創設25周年を祝うチャリティイベントを開催。約半年間に渡り、35名のボランティアチームがイベントを企画し、当日の運営を担った。また、国をまたいで子どもたちの自主企画も大きな成果であった。東京をメイン会場とし、全国6ヶ所、さらにフィリピン/マレーシアとオンライン中継を結び、会場参加は134名、オンラインでの参加は70名となり多くの参加者とともに祝いすることができた。 |
| CFF インターナショナルの連携強化と組織化準備 | 拡充 | 4ヶ国のCFFがCFF インターナショナルとして連携を強化し、共同で人材育成や資金調達ができるようにするため、CFF ジャパンとしてもワーキングコミッティを組織し準備を進めた。団体活 |

| | | |
|---|-----------|---|
| | | <p>動当初からの寄付者やプロボノとして情報や助言提供を見込める支援者対象の説明会と意見交換会を行い、短・中・長期のロードマップを作成できた。準備金の資金調達の結果、4ヶ国で総額334万円（目標額の97%）の寄付をいただいた。次年度フィリピン・マニラでの事務所設立にあたり、登記申請等の手続きが急務である。</p> |
| <p>データベースの新規導入による支援者・メンバーとのコミュニケーション活性化</p> | <p>新規</p> | <p>これまで蓄積してきた関係者名簿のデータを Salesforce に移行し、クラウドで管理できるようになり、長年の懸案が解決した。管理するだけでなく、コミュニケーションの活性化に向けて活用していくのが今後の課題である。</p> |
| <p>新しい公式 web サイトの完成と運用</p> | <p>拡充</p> | <p>他業務に追われて担当者が定まらず、完成には至らなかった。本サイトを設計した当初とでは当団体の事業構成が著しく変化していて、いくつか新しいページを追加したが、次年度は現在の事業構成を踏まえて全体的に見直しを図っていく。</p> |